

# 第54回全国短歌大会報告

鶴田伊津

第五十四回全国短歌大会が二〇二五年十月二十五日(土)、会場を昨年までの学士会館から東京・一ツ橋の喜山俱樂部に移し、開催された。司会進行は石川美南。

今回の応募者数は三八四名、応

# 現代歌人協会会報 185

募歌数一八五八首。十名の選者は全作品に目を通し、八月一日(金)に行われたオンラインでの選者会議にて全国短歌大会賞一作、朝日新聞社賞一作、学生短歌賞二作を選出した。各賞は以下の通り。

## \*全国短歌大会賞

父は多分ガリガリ君の「あの夏の恋の終わり味」とかも信じる  
猪野田涼奈

## \*朝日新聞社賞

ペランダに連なっているTシャツの数だけ僕を補充しておく  
山田裕樹

## \*学生短歌賞

風のなか手話でゆっくり話す子に枝垂れ桜は揺れてこたえる  
箭田儀一

川上真央

アスファルトのへこみに雨は溜まりつつ臉は徐々にふたでなく

なる  
小田閑香

## \*選者賞

### 大松達知選

夫の着更へ後ろに廻り手を貸せばありがたうが早いズボン持ち  
上ぐ  
小田閑香

### 小塩卓哉選

役目終えひとつの組織が終わるとき人の死に似た静けさがあり  
白崎久仁子

### 久々湊盆子選

悲しみを深く堪えし道化師に宿れる神をルオーは見たり  
野上卓

### 坂井修一選

供出を免れし鉄の風鈴は百年の風に音色響かす  
後藤真由美

### 佐佐木定綱選

父は多分ガリガリ君の「あの夏の恋の終わり味」とかも信じる  
猪野田涼奈

### 佐藤弓生選

フェルメールの少女の見開く眼

には血管が細かく描かれてをり  
白井美沙子

### 田中 槐選

林檎剥く母の太刀筋するどくて古九谷の上に怒りが並ぶ  
新井きわ

### 田村 元選

ただ今が笑えればいい子とふたり夕日に向けて撃つかめはめ波

### 鶴田伊津選

ふりむいた頬をかすめるこの春の雪に三人称を与える  
樋口淳一郎

### 前田康子選

ペランダに連なっているTシャツの数だけ僕を補充しておく  
山田裕樹

式典は坂井修一理事長の挨拶から始まり、

千四百年といわれる短歌の歴史の中で連綿と受け継がれてきた五七七という形式だが、

主題・表現方法は変化してきた、

二十一世紀の今日、私達は短歌の世界の先端に立って

り、今回の入選作もそういったことと無縁ではないが、一方で伝統を守ることも大事なことである

と、芭蕉の「不易と流行」を引きながら、両者の葛藤の中で生まれる新しい短歌への期待と、短歌が

そういう歴史を経た生き物であるということを実感していただけないと述べた。高木佳子からの

入選作品の選考経過の報告に続いて、各選者からは自身の選者賞・

秀作二作の選評と、佳作十七作の内、当日会場に参加の作者の作品

についての選評が述べられた。続いての表彰式では、当日出席の受

賞者に表彰状と副賞が手渡され、その後、入賞者・選者全員での写真撮影が行われた。

休憩を挟んで、後半の坂井修一、佐藤弓生両氏の特別選評では、入

選歌を中心に、短歌に反映される世相や時代、価値観の変化を掘り

上げながら、二人の幅広い知識と独自の目線で、現代短歌の問題点、課題へと迫った。

各選者の選評、後半の特別選評など、他者の歌の読みを聞くことで一首一首が平面ではなく、立体

として立ち上がってくるのが、短歌大会に参加する喜びの一つである。自分が感知していなかった言

葉の孕むさまざまなものに光が当てられるのだ。幅広い話題からも短

歌という生き物を実感できる充実の時間であった。



第54回全国短歌大会

に立って